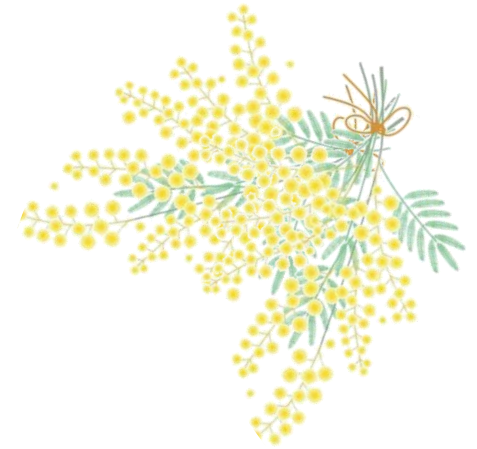


良子さんの ほっと一息ティータイム



経済のはなし 熊谷 良子 vol.22

「経済」からどのような言葉を連想されるでしょうか。

お金、物価、格差、景気、政治、財産、結婚、出産、進学、就職、ローン、…。

私たちに身近な「経済」でありながら、日常の中で意識して話題にすることはほとんどありません。

そこで、2冊の書籍を通して生き方や幸せについて考えてみました。

1冊目は、『父が娘に語る 美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい 経済の話』です。著者は、これから自分の道を探す十代半ばの自分の娘に、自立した考えをもち、経済のしくみを知ることの重要性と「自分の身の回りで、そして遠い世界で、誰が、誰に何をしているのか？」という難しい問いに答える能力が「精神の自由の源泉になる」と語ります。

そして、「遠くから俯瞰してみる視点をもって」いることが基盤になると説きます。

経済が分かることは、鳥の目で全体を観る力を得て、自分の位置がより明確なり、抱えきれないほどの問題も少し分類や整理がスムーズになるかもしれません。

そうすることで、理想的な「美しく、深く、壮大」な人生の路に近づけるでしょうか。

2冊目は、『経済評論家の父から息子への手紙—お金と人生と幸せについて—』です。

これは、余命宣告を受けた父から18歳の息子への遺言にもなる手紙であり、経済評論家としての人生論、経済論でもあります。

まえがきには「人生の豊かさを決めるのは働き方」であり、「親世代の時代と今とでは『真逆』と言っていくらい変化している」こと、さらに、45歳から次のステージへの準備が必要なことも示しています。

息子への手紙は、感謝状であり、子育ての意図や将来の働き方や稼ぎ方も綴られています。

息子へ期待と敬意と愛情に満ちた言葉をかけ、一生分の温かい眼差しで包んでいるのが伝わってきます。1月1日逝去。

家族や身近な人たちと、もっと気軽に、経済や人生、子育て、社会問題について語り合い、考え合い、励まし合いたい。

そのための言葉を手に入れることの大切さを2冊の書籍を通して強く感じています。

【書籍の紹介】

『父が娘に語る 美しく、深く、壮大で、とんでもなくわかりやすい 経済の話。』 ヤニス・バルファキス 著 関美和 訳 ダイヤモンド社 2019

『経済評論家の父から息子への手紙 —お金と人生と幸せについて—』 山崎元 著 Gakken 2024

